

創立 18 周年記念「放談会」報告

野口 雄司

2025 年（令和 7 年）11 月 22 日（土）、神奈川放友会創立 18 周年記念「放談会」を桜木町ワシントンホテル 5F「ダイニング&バー ベイサイド」で開催しました。



放談会出席者 15 名

松枝 由美 星野 光雄

日本原子力文化財団事務局次長兼

統括事業部長 岡元 博志

野口 雄司 坂井 茂夫 千田 久治 草柳 伸彦
中村 豊 長谷川 武 橋 亨 小嶋 昌光
福田 利雄 小松崎真一 橋口 邦紘 早瀬 武雄



冬の真っ青な快晴の元、アクティブシニアが参集。中村会長の開始挨拶後、会がスタートした。

今回はゲストとして、「原子力発電環境整備機構」NUMO の活動を支援している財団法人 日本原子力文化財団事務局次長 兼 統括事業部長の岡元 博志 様も参加され、会の活動に関する意義そして、音楽と講演を結び付けたユニークな今後の期待に関して述べられました。会として活動の価値を改めて実感した次第でした。



続いて先に行われた「講演と音楽の集い」での「音楽の杜管弦楽団」の演奏会にお尽力いただいた小嶋副会長より感想と様々な対応についての報告が行われた。参加された 62 名のフルオーケストラによる本格的な迫力と熱い演奏には改めて感謝するものでした。



その後参加者による近況報告が行われた。それぞれの生活での出来事や、趣味、旅行の臨場感あふれる話。現役を続けている仕事上での内容。そして放友会の設立の際の話など、幅広い多岐にわたる内容に興味津々。

人それぞれの「時」の経過に感謝しつつ、自分の周囲の有形・無形のものにあらためて目を向け、それらに接し聞けることに感謝するものであった。このような歓談に参加できたことは人との輪をさらに豊かにする貴重な経験と感じた。

また「年齢を重ねるごとに外に出ましょう。」「そしてお洒落をしましょう。」まさにアクティブシニアを維持する真髄との指摘には大いに力づけられたものです。

美味しい食事とお酒そして多岐にわたる話題の二時間。アッと間に過ぎ、橋 副会長より締めの挨拶。全員の記念撮影をし、またの再会を約束しお開きとなった。

会としては様々な参加企画を提言しているが、原子力発電廃棄物の最終処分を考えるテーマでは広く実態をわかりやすく知らせるという活動と同時に施設見学などを通し新たな知見を積み重ねるという意味でも、今後も多くの会員に魅力的な機会を提供していきたいと感じている。

そして会員のための「放談会」人と接する喜びと自分の知らない見聞や、知見をさらに深める。なにより会員の「顔」と「声」に接することはなんとも居心地のよい時間・空間共有であることか。

以前巻頭言に記したが、さらなる知的好奇心を満たす活動の進化と全員参加型の場の設定や会員の声を広範囲に共有化できるあり方を模索することに期待したいものだ。

その一つとしても、大いにニュースレターに近況報告含め皆さんとの声を届けて欲しいと感じている。

さらに、次を担える新たな仲間の会員登録を期待したいものである。